



IBM Db2 のリストア

SnapCenter software

NetApp
November 06, 2025

目次

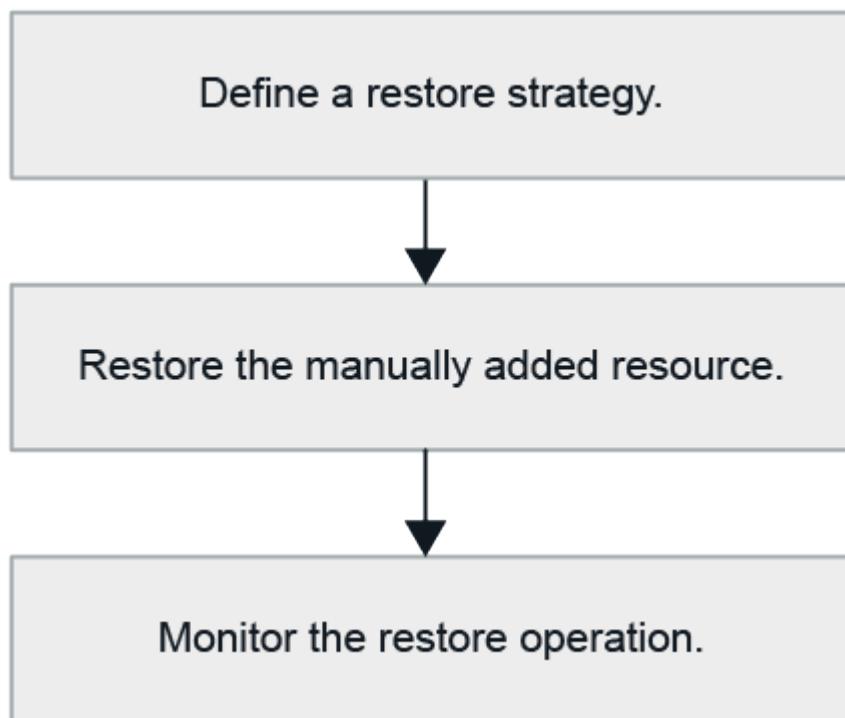
IBM Db2のリストア	1
リストアのワークフロー	1
手動で追加されたリソース バックアップのリストア	1
自動検出されたデータベース バックアップのリストアとリカバリ	6
IBM Db2リストア処理の監視	8

IBM Db2のリストア

リストアのワークフロー

リストアとリカバリのワークフローには、計画、リストア処理の実行、および処理の監視が含まれます。

次のワークフローは、リストア処理の実行順序を示しています。



PowerShellコマンドレットを手動またはスクリプトで使用して、バックアップ、リストア、クローニングの処理を実行することもできます。PowerShellコマンドレットの詳細については、SnapCenterのコマンドレットのヘルプを使用するか、コマンドレットのリファレンス情報を参照してください。

["SnapCenterソフトウェア コマンドレット リファレンス ガイド"。](#)

手動で追加されたリソース バックアップのリストア

SnapCenterを使用して1つまたは複数のバックアップからデータをリストアおよびリカバリすることができます。

開始する前に

- リソースまたはリソース グループをバックアップしておく必要があります。
- リストアするリソースまたはリソース グループに対して現在実行中のバックアップ処理がある場合は、すべてキャンセルしておく必要があります。
- リストア前、リストア後、マウント、アンマウントの各コマンドを実行する場合は、プラグイン ホストでの次のパスから使用可能なコマンド リストにコマンドが存在するかどうかを確認する必要があります。

- Windows ホスト上のデフォルトの場所: C:\Program Files\ NetApp\ SnapCenter\Snapcenter Plug-in Creator\etc\allowed_commands.config
- Linux ホスト上のデフォルトの場所: /opt/ NetApp/snapcenter/scc/etc/allowed_commands.config



コマンドがコマンド リストに存在しない場合、処理は失敗します。

タスク概要

- ONTAP 9.12.1以前のバージョンでは、リストアの一環としてSnapLock Vault Snapshotから作成されたクローンが、SnapLock Vaultの有効期限を継承します。SnapLockの有効期限が過ぎたあと、ストレージ管理者がクローンを手動でクリーンアップする必要があります。

SnapCenter UI

手順

- 左側のナビゲーションペインで [リソース] をクリックし、リストから適切なプラグインを選択します。
- [リソース] ページで、リソース タイプに基づいて [表示] ドロップダウン リストからリソースをフィルターします。

リソースは、タイプ、ホスト、関連するリソース グループとポリシー、およびステータスとともに表示されます。



リストアの実行時は、バックアップがリストア グループに対するものであっても、リストア対象のリソースを個別に選択する必要があります。

リソースが保護されていない場合は、「全体ステータス」列に「保護されていません」と表示されます。この状態になるのは、リソースが保護されていない場合とリソースが別のユーザによってバックアップされている場合です。

- リソースを選択するか、リソース グループを選択してそのグループ内のリソースを選択します。
リソースのトポロジ ページが表示されます。
- [コピーの管理] ビューで、プライマリまたはセカンダリ (ミラーリングまたはボールト化された) ストレージ システムから [バックアップ] を選択します。
- プライマリバックアップテーブルで、復元するバックアップを選択し、*をクリックします。 *。

Primary Backup(s)	
Backup Name	End Date
rg1_scspr0191683001_01-05-2017_01.35.06.6463	1/5/2017 1:35:27 AM

- 復元範囲ページで、*完全なリソース*を選択します。

- *完全なリソース*を選択すると、IBM Db2 データベースのすべての構成済みデータ ボリュームが復元されます。

リソースにボリュームまたはqtreeが含まれている場合、そのボリュームまたはqtreeのリストア用のSnapshotが選択されたあとに作成されたSnapshotは削除され、リカバリすることはできません。また、同じボリュームまたはqtreeで他のリソースがホストされている場合、そのリソースも削除されます。

複数のLUNを選択できます。



すべてを選択すると、ボリューム、qtree、または LUN 上のすべてのファイルが復元されます。

- [Pre ops] ページで、リストア ジョブの実行前に実行するリストア前の処理とアンマウントのコマン

- ドを入力します。
8. [Post ops]ページで、リストア ジョブの実行後に実行するマウントとリストア後の処理のコマンドを入力します。
 9. 通知ページの 電子メール設定 ドロップダウンリストから、電子メールを送信するシナリオを選択します。

また、送信者と受信者のEメール アドレス、およびEメールの件名を指定する必要があります。SMTP は、[設定] > [グローバル設定] ページでも設定する必要があります。

10. 概要を確認し、[完了] をクリックします。
11. モニター > ジョブ をクリックして、操作の進行状況を監視します。

終了後の操作

ロールフォワード ステータスが「DB pending」の場合にのみリカバリが可能です。このステータスは、アーカイブ ログが有効なDb2データベースに適用されます。

PowerShellコマンドレット

手順

1. Open-SmConnectionコマンドレットを使用して、指定のユーザでSnapCenter Serverとの接続セッションを開始します。

```
PS C:\> Open-SmConnection
```

2. Get-SmBackupコマンドレットおよびGet-SmBackupReportコマンドレットを使用して、リストアするバックアップを特定します。

この例では、リストアできるバックアップが2つあります。

```
PS C:\> Get-SmBackup -AppObjectId  
cn24.sccore.test.com\DB2\db2inst1\Library
```

BackupId	BackupName	BackupTime
1	Payroll Dataset_vise-f6_08...	8/4/2015 11:02:32
2	Payroll Dataset_vise-f6_08...	8/4/2015 11:23:17

この例では、2015年1月29日から2015年2月3日までのバックアップに関する詳細な情報を示しています。

```

PS C:\> Get-SmBackupReport -FromDateTime "1/29/2015" -ToDateTime
"2/3/2015"

SmBackupId      : 113
SmJobId         : 2032
StartTime        : 2/2/2015 6:57:03 AM
EndTime          : 2/2/2015 6:57:11 AM
Duration         : 00:00:07.3060000
CreatedDateTime   : 2/2/2015 6:57:23 AM
Status           : Completed
ProtectionGroupName : Clone
SmProtectionGroupId : 34
PolicyName       : Vault
SmPolicyId       : 18
BackupName        : Clone_SCSPR0019366001_02-02-2015_06.57.08
VerificationStatus : NotVerified

SmBackupId      : 114
SmJobId         : 2183
StartTime        : 2/2/2015 1:02:41 PM
EndTime          : 2/2/2015 1:02:38 PM
Duration         : -00:00:03.2300000
CreatedDateTime   : 2/2/2015 1:02:53 PM
Status           : Completed
ProtectionGroupName : Clone
SmProtectionGroupId : 34
PolicyName       : Vault
SmPolicyId       : 18
BackupName        : Clone_SCSPR0019366001_02-02-2015_13.02.45
VerificationStatus : NotVerified

```

3. Restore-SmBackupコマンドレットを使用して、バックアップからデータをリストアします。



AppObjectId は「Host\Plugin\UID」です。ここで、UID = <instance_name> は手動で検出された DB2 インスタンス リソース用であり、UID = <instance_name>\<database_name> は IBM Db2 データベース リソース用です。ResourceIdは、Get-smResourcesコマンドレットで取得できます。

```
Get-smResources -HostName cn24.sccore.test.com -PluginCode DB2
```

この例は、プライマリ ストレージからデータベースをリストアする方法を示しています。

```
Restore-SmBackup -PluginCode DB2 -AppObjectId  
cn24.sccore.test.com\DB2\db2inst1\DB01 -BackupId 3
```

この例は、セカンダリストレージからデータベースをリストアする方法を示しています。

```
Restore-SmBackup -PluginCode 'DB2' -AppObjectId  
cn24.sccore.test.com\DB2\db2inst1\DB01 -BackupId 399 -Confirm:$false  
-Archive @({ "Primary"="Vserver>:<PrimaryVolume>"; "Secondary"="Vserver>:<SecondaryVolume>" })
```

コマンドレットで使用できるパラメータとその説明に関する情報は、*Get-Help command_name* を実行すると取得できます。あるいは、["SnapCenterソフトウェア コマンドレット リファレンス ガイド"](#)。

自動検出されたデータベース バックアップのリストアとリカバリ

SnapCenterを使用して1つまたは複数のバックアップからデータをリストアおよびリカバリすることができます。

開始する前に

- リソースまたはリソース グループをバックアップしておく必要があります。
- リストアするリソースまたはリソース グループに対して現在実行中のバックアップ処理がある場合は、すべてキャンセルしておく必要があります。
- リストア前、リストア後、マウント、アンマウントの各コマンドを実行する場合は、プラグイン ホストで次のパスから使用可能なコマンド リストにコマンドが存在するかどうかを確認する必要があります。
 - Windows ホスト上のデフォルトの場所: C:\Program Files\ NetApp\ SnapCenter\ Snapcenter Plug-in Creator\etc\allowed_commands.config
 - Linux ホスト上のデフォルトの場所: /opt/ NetApp/snapcenter/scc/etc/allowed_commands.config



コマンドがコマンド リストに存在しない場合、処理は失敗します。

タスク概要

- 自動検出されたリソースについては、SFSRでリストアがサポートされます。
- 自動リカバリはサポートされていません。
- ONTAP 9.12.1以前のバージョンでは、リストアの一環としてSnapLock Vault Snapshotから作成されたクローンが、SnapLock Vaultの有効期限を継承します。SnapLockの有効期限が過ぎたあと、ストレージ管理者がクローンを手動でクリーンアップする必要があります。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで [リソース] をクリックし、リストから適切なプラグインを選択します。
2. [リソース] ページで、リソース タイプに基づいて [表示] ドロップダウン リストからリソースをフィルターします。

リソースは、タイプ、ホスト、関連するリソース グループとポリシー、およびステータスとともに表示されます。



リストアの実行時は、バックアップがリストア グループに対するものであっても、リストア対象のリソースを個別に選択する必要があります。

リソースが保護されていない場合は、「全体ステータス」列に「保護されません」と表示されます。この状態になるのは、リソースが保護されていない場合とリソースが別のユーザによってバックアップされている場合です。

3. リソースを選択するか、リソース グループを選択してそのグループ内のリソースを選択します。

リソースのトポロジ ページが表示されます。

4. [コピーの管理] ビューで、プライマリまたはセカンダリ (ミラーリングまたはボルト化された) ストレージシステムから [バックアップ] を選択します。
5. プライマリバックアップテーブルで、復元するバックアップを選択し、*をクリックします。 *。

The screenshot shows a table titled "Primary Backup(s)" with a single row selected. The selected row contains the text "rgt_scipr0191683001_01-05-2017-01.35.06.6463". The table has columns for "Backup Name" and "End Date".

6. 「復元範囲」ページで、「完全なリソース」を選択して、IBM Db2 データベースの構成済みデータ ボリュームを復元します。
7. [Pre ops] ページで、リストア ジョブの実行前に実行するリストア前の処理とアンマウントのコマンドを入力します。

自動検出されたリソースについては、アンマウント コマンドは必須ではありません。

8. [Post ops] ページで、リストア ジョブの実行後に実行するマウントとリストア後の処理のコマンドを入力します。

自動検出されたリソースについては、マウント コマンドは必須ではありません。

9. 通知ページの 電子メール設定 ドロップダウン リストから、電子メールを送信するシナリオを選択します。

また、送信者と受信者のEメール アドレス、およびEメールの件名を指定する必要があります。SMTP は、[設定] > [グローバル設定] ページでも設定する必要があります。

10. 概要を確認し、[完了] をクリックします。
11. モニター > ジョブ をクリックして、操作の進行状況を監視します。

終了後の操作

ロールフォワード ステータスが「DB pending」の場合にのみリカバリが可能です。このステータスは、アーカイブ ログが有効なDb2データベースに適用されます。

IBM Db2リストア処理の監視

[Job]ページを使用して、SnapCenterの各リストア処理の進捗状況を監視できます。処理の進捗状況をチェックして、処理が完了するタイミングや問題が発生していないかどうかを確認できます。

タスク概要

リストア後の状態によって、リストア処理後のリソースの状況と、追加で実行できるリストア操作がわかります。

[Jobs]ページでは、次のアイコンで処理の状態が示されます。

- 進行中
- 正常に完了しました
- 失敗した
- 警告付きで完了したか、警告のため開始できませんでした
- キューに登録
- キャンセル

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、[モニター] をクリックします。
2. *モニター*ページで、*ジョブ*をクリックします。
3. ジョブ ページで、次の手順を実行します。
 - a. をクリックし でリストをフィルタリングし、リストア処理のみを表示します。
 - b. 開始日と終了日を指定します。
 - c. *タイプ*ドロップダウンリストから*復元*を選択します。
 - d. *ステータス*ドロップダウンリストから、復元ステータスを選択します。
 - e. 正常に完了した操作を表示するには、[適用] をクリックします。
4. 復元ジョブを選択し、[詳細] をクリックしてジョブの詳細を表示します。
5. *ジョブの詳細*ページで、*ログの表示*をクリックします。

ログを表示 ボタンをクリックすると、選択した操作の詳細なログが表示されます。

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を隨時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5225.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。